

2020年に向けた教育改革について考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
雨が毎日しとしとと降っていて、ようやく梅雨に入ったのかなという感じがします。気温が上がったり下がったりしていますので、お身体に十分気をつけてお過ごしいただきたいと思います。
2. この「開倫塾の時間」では、効果の上がる学習方法についてお話をさせていただいています。ただ、時々社会の動きなどについてもお話をしております。そこで今日は、政府と文部科学省が2019年と2020年に向けて大きな教育改革を考えていますので、そのお話を少しさせていただきます。
3. 政府には、日本の教育再生に向けてどのようなことを行っていけばよいかを考える教育再生実行会議があります。下村博文・文科大臣が担当大臣となり、政府の安倍首相と一致協力して、教育再生に向けて大きな動きをしています。これは、放送をお聴きの栃木・群馬・茨城の北関東3県や埼玉県の皆さんにも大きな影響がありますので、一緒に考えていきたいと思っています。
4. 特に、東京オリンピックとパラリンピックが開かれる2020年は大きな改革の年になります。具体的には、現在は海外に留学している大学生は6万人ぐらいですが、これを5年後の2020年には12万人にしようとしています。今の中学3年生から高校生の皆さんは留学の機会が倍増しますので、どんどん留学していただきたいと思います。また、海外から日本へ留学している学生の数は、現在は14万人ぐらいです。これも、5年かけて倍増させ、30万人にするという方針を打ち出しています。現在でも海外からの留学生は多く、栃木・群馬・茨城・埼玉県内の各大学に優秀な方がたくさんいらっしゃって学習や活動をなさっています。この数が2倍になります。
5. 5年後の2020年には、日本から海外へ留学する方は今の6万人から12万人になり、今の中学3年生から高校生にかけての方にとっては留学のチャンスが広がります。同時に、海外から日本へ留学する方は14万人から30万人になります。このように、これからの大学は様子がガラッと変わり、外国人がたくさんいる大学がどんどん増えていきます。また、栃木・群馬・茨城・埼玉県内の各街には、外国人留学生がたくさんいらっしゃるようになります。どうか、その方々と一緒に活動などをしていただきたいと思います。

6. 私の本音を言いますと、少子高齢化で人口が減っている日本にせつかく 30 万人もの留学生が来るのですから、全員の皆さんに日本で就職して住んでいただき、母国と日本との掛け橋になっていただきたいです。これから先、日本の企業はサービス産業も含めて海外へ展開するところがたくさん出てくると思います。その場合に、日本で就職した留学生の方々に母国に帰っていただき、日本の企業の社員として活躍していただけると、これ以上ありがたいことはありません。ですから、海外からの留学生の皆さんを大切に大切に、日本の社会の一員として、また、企業の一員として活躍できるようにしていただくと素晴らしいと思います。
7. ちなみに、中国からアメリカに留学した方々の多くは、アメリカの企業に就職して中国担当になっているそうです。中国にはアメリカの企業が山ほどありますが、中国に行っているアメリカ人は非常に少ないようです。そのため、中国からの留学生をアメリカの企業の社員とし、中国で活躍させています。アメリカはこのようなことが得意です。日本もこれを学ばせていただき、日本への留学生を大事にしていただければと思います。
8. また、日本では社会人を大学や専門学校などに受け入れています。現在は 12 万人ぐらいしかいません。これから先は 2 倍の 24 万人にするとのこと。ですから、社会で働いたり活躍したりしている方々も、大学・大学院・専門学校に入り直して勉強していただければと思います。これを学び直しと言います。例えば、栃木県内には宇都宮大学・作新大学・白鷗大学・共和大学・文星大学はじめ多くの大学、あるいは大学院があります。社会人の方や一度大学・大学院・専門学校を出た方も、栃木県内や群馬県内、茨城県内、埼玉県内などの大学・大学院・専門学校に入り直して勉強していただきたいと思います。政府はそれを奨励し、現在は 12 万人しかいない社会人受講生を 24 万人にしようと計画しています。
9. このような教育改革が進んでいます。また、大学入試のしくみも 2019 年から大幅に変わります。例えば英語は、現行の試験は 2020 年度からありません。それまでは読む・聞く、つまり読んで答える問題とリスニングという聞いて答える問題が中心ですが、それ以降は話す問題や書く問題も加わり、同じ配点になります。400 点満点であれば、100 点が読む(読解)問題、100 点が聞く(リスニング)問題、100 点が話す問題、100 点が書く問題で、ガラッと変わります。
10. さらに、小学校の英語に関しては、現行では 5 年生から正規教科になっています。それが 3 年生からになります。このように、日本の教育はこれからの 5 年間でガラッと変わります。ですから、放送をお聴きの皆さんも注目し、身近に感じていただきたいと思います。海外への留学生・海外からの留学生がとにかく増えます。ぜひご期待ください。